

講義科目 : 居住環境特別演習	単位数 : 4
担当 : 木下 誠一	学習形態 : 必修科目
	実務経験 : 有
	* 第2学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

建築空間と人々の生活との対応関係を理解し、より良い生活空間のあり方について提案する能力を身に着けることを目標とする。実際に現地調査を行うなど、座学では得られない体験を通して理解を深めることが大切であると考えている。

授業計画

住宅、集合住宅、地域施設に関するテーマを設定し、調査分析により現状と課題を把握した上で、より良い生活空間のあり方についての考えを設計作品又は論文にまとめる。研究は、個人または3名以内のグループ単位で行う。

第1回	ガイダンス	第16回	現地調査報告
第2回	課題①出題（事例分析）	第17回	基本方針の設定
第3回	課題①検討作業	第18回	全体発表・意見交換
第4回	課題①提出・発表	第19回	エスキス・調査分析
第5回	プレゼンツールの使い方（CAD）	第20回	エスキス・調査分析（修正）
第6回	プレゼンツールの使い方（3D）	第21回	全体発表・意見交換
第7回	プレゼンツールの使い方（パワポ）	第22回	図面・論文作成（全体構成）
第8回	課題②出題（空間提案）	第23回	図面・論文作成（各部）
第9回	課題②検討作業	第24回	全体発表・意見交換
第10回	課題②提出・発表	第25回	図面・論文の作成（草案）
第11回	研究テーマの構想	第26回	図面・論文の修正
第12回	研究テーマの検討	第27回	図面・論文の完成
第13回	参考文献・事例の収集	第28回	研究発表準備
第14回	参考文献・事例の分析	第29回	研究発表練習
第15回	現地調査の計画	第30回	研究成果の発表

教材・テキスト・参考文献等

必要に応じて適宜指示する。

成績評価方法

授業における取組姿勢及び報告内容（50%）、研究成果の内容（50%）により総合的に評価する。

実務経験

一級建築士として建築設計事務所に勤務した経験を活かし、授業では実践的な計画・設計手法についても講義する。

その他

- ・ゼミの時間は主に報告や議論にあてるため、時間外での自主的な取組みが必要である。
- ・設計やデザインに関心があり、「住生活設計Ⅰ」を履修していることが望ましい。